

批判

道路問題

のいろいろ

幡川生

三百萬圓で農村振興を實行すると云ふ、道路なくして何の農村振興ぞやと云ひたくなる。

二

道路改良と云ふことも大分一般に徹底して來た。それに従事する技術者も大分熟練を積んで來た。併しながら地方の實際を見ると、動もすれば羅馬人の作つた道路のやうに、勾配や屈曲を注意するの外一直線道路を理想として居るが爲めか樹を伐り谷を埋め阿修羅の狂ふが如く、旋風の舞ふが如く鹿追ふ獵師の山を見ざるが如く、眼を隠した馬車馬の如く、觸るものは皆壊さずんば止まずと云ふ勢であつて、其處にユトリもなければ餘裕もない。大樹が伐られる、名木が倒される。史蹟が蹂躪せられる名勝が破壊せられる。神社も寺院も皆道路の爲めには犠牲を拂はされる。之に苦情を云ふ者は公共の利益の侵犯者になる。之は道路法を振りかざして道路の改修を爲しつつある地方に於ける極端なる一例である、亞米利加の如き新開の國ですらも、こんな亂暴は之を蛇蝎視する道路美學と云ふ著書さへ書舗の店頭に見受けることがある。どうか予等の敬愛する地方技術家各位、道路の改修を行ふに方りては、一木一石と雖無意味に天地間に存在するものにあ

政府の行政財政整理委員とやらの案が出來て、是から愈々閣議に移ると云ふ今日此頃、河川費が何割減で港灣費が何割減だ、道路改良費は削除だなど新聞の與太記事が盛に紙面を賑はす、内務省や政黨の本部は地元の運動者で身動きもとれぬ位だと云ふ。河川の改修も港灣の修築も固よりよろしい。それも道路なくて何の港灣ぞやと云ひたくなる。農商務省は

らすと云ふことを牢記せられて、よく環境と調和の出来るやうなユトリのある道路の築造方法を實行して貰ひたい。去ぬる年熊本市では、龍田山下の宮本武藏の腰掛石を道路工事に使用せんとして、世間の反對に出逢つたこともあつた。予等は切に技術家の審美的情操の發達せんことを望む。

三

都市交通の整理を爲すに、一番の厄介者は自轉車である。

殊に後部に荷物臺を有する自轉車は、乗用者のコントロールが不充分なので、交通事故發生の原因となる場合が少くない。東京の如く市内に一萬臺以上の自轉車が横行するやうな都市では、二十八萬臺の自轉車の爲めに、専用道路を設けるとか其の他相當の方法を攻究しなければ、市内の交通はスグ行きつまりの時期が到來することを恐れる。

四

秋晴の一日自轉車を洗足池畔の田園都市に驅る。道を五反田驛下のガードに取り、大崎町、平塚村を経て目的地に行かむとす、五反田（大崎町）の内の道路の幅員は狭小にて來往の車馬は織るが如く。混雜名狀すべからず。自轉車の進行洵

に遅々たるを嘆ぜしむ、と見れば予の自轉車の前方が人力車其の前は牛の牽ける貨物車である千里を驅ける屈強の武器も漫歩の大家たる牛に出鼻を抑えられては、如何ともすべからず、東京市内の燒跡整理に没頭することも大切なることは勿論であるが、日に日に發展して行かむとする郊外に、何等注意を拂ふ所なきは遺憾である。復興局の各位、散歩旁々此の方面に足を伸して、實地の狀況を視察せられたい。而して速かに之が善後の處置を講ぜられたい。

五

道路法の施行當時は道路上の電柱整理が都鄙を通じて一問題であつたやうに思ふ。爾來六七年杳として其聲を收めたるやの感がある。東京市内の歩道の電柱の籤は、今も昔の状態を改めぬ。京濱の新國道にも國道と鈎合ふ堂々たる電柱が建てられて居る。文化國に見られぬ是等の珍現象は、何とか少しづつでも仕末して頂きたい。市の内外に於ける街角に建てられた電柱は、馬力や自轉車のために腰のあたりを削り取られて、危くも残つて明日の命の保證も出来ない有様である。これなどもみにくいものの第一である。何とか早く仕末して貰ひたい。